

2021 年度秋季大会（オンライン）の開催報告

大会・企画委員会, LOC（東北大学）

2021 年度秋季大会は当初宮城県仙台市の仙台国際センターで実施予定でしたが、新型コロナウイルス感染症流行の影響を鑑み、昨年度に引き続きオンラインでの開催となりました。開催日は当初予定と同様に 2021 年 10 月 14 日（木）～16 日（土）の 3 日間で、参加者は 651 名（会員 556 名、非会員 95 名）でした。プログラム確定後の講演発表数は口頭発表 168 件、ポスター発表 128 件の合計 296 件で、ポスター発表 1 件についてキャンセルがありました。口頭発表数には 2020 年度若手学術奨励賞受賞者 3 名の記念講演を含んでいます。団体展示について本報告後半に示す 10 団体から出展がありました。また大会会期翌日に LOC（東北大学）による一般公開セミナーが開催されました。

オンラインでの大会開催は、昨年度と同様、参加登録者に大会会場サイトへのログイン ID とパスワードを発行し、大会会場サイトにプログラム、予稿、Zoom へのリンク、ポスター、団体展示及び各種お知らせを一元的に掲載することで実施しました。一般セッション 19 件と特別セッションとして「震源物理・地下構造推定・強震動評価のための地震波スペクトル解析」、「AI による地震学の発展」、「ベイズ統計学による地震データの解析と数理モデリングの深

化」の 3 件が開催されました。口頭発表については大会 1 日目と 2 日目は 4 会場、3 日目は 3 会場の Zoom ミーティングにより実施しました。また 3 日目の午前 1 コマ目には 2020 年度論文賞授賞式と若手学術奨励賞受賞者による記念講演が行われました（開催報告は前号のニュースレター NL-4-19～20 ページに掲載されています）。口頭発表の時間は、一部の招待講演を除いて 1 件当たり 15 分（講演 12 分、質疑 3 分）としました。ポスター発表については大会 3 日間を通じて大会会場サイトに e-poster を掲載するとともに、大会 1 日目と 2 日目に Zoom ブレイクアウトルームでの説明と質疑応答を行うコアタイムを設けました。なお昨年度は初のオンライン開催だったため、以降の参考とするため大会後にアンケートを実施しました。今年度の開催に当たってはアンケート結果を踏まえて、発表希望曜日のプログラム編成への反映、ポスターコアタイムの Zoom を用いたリアルタイムのやり取り等の対応を図りました。

大会期間中の大会会場サイトへのアクセス数は 72,233 件（1 日目 34,026 件、2 日目 24,979 件、3 日目 13,228 件）となりました。Zoom への参加者は以下の通りです。

	A 会場	B 会場	C 会場	D 会場
1 日目 AM1	135	92	114	113
1 日目 AM2	106	141	94	123
1 日目 PM	116	106	163	64
1 日目ポスター コアタイム	130	90	—	—
2 日目 AM1	103	118	120	73
2 日目 AM2	76	177	101	74
2 日目 PM	72	193	81	94
2 日目ポスター コアタイム	120	110	—	—
3 日目授賞式・ 受賞記念講演	282	—	—	—
3 日目 AM2	107	135	69	—
3 日目 PM	82	162	47	—

大会会場サイトのコメント機能によるコメントは 98 件ありました。

また今年度も学生による優れた研究発表を奨励し、研究発表技術の向上を目的とした「学生優秀発表賞」の審査を行いました。過去に当賞を受賞していない学生会員の、予稿投稿時に審査の希望を選択した発表が、口頭、ポスターともに審査対象となります。21名の審査員により42件の発表の審査があり、3名が受賞されました。選考結果と受賞者についてはNL-5-13~14ページをご覧ください。

来年度の秋季大会は北海道札幌市の北海道立道民活動センター「かでの2・7」において2022年10月24日（月）~26日（水）の日程で開催予定です。LOCは北海道大学の皆様にお引き受けいただいています。会員の皆様の積極的な投稿・参加を期待しています。

2年続けてのオンライン開催となりましたが、ご関係の皆様、ご参加いただいた皆様のご協力により無事に実施することができました。特に、セッション提案と管理をいただいた特別セッションコンビーナの皆様、各セッションの座長及び学生優秀発表賞の審査員をお引き受けくださいました皆様には厚く御礼申し上げます。

○キャンセルされた発表の講演番号：S16P-02

○出展団体（順不同）

- ・一般財団法人東京大学出版会
- ・イネーブラー株式会社
- ・株式会社クレアクト
- ・国立研究開発法人防災科学技術研究所
- ・国立研究開発法人海洋研究開発機構 海域地震火山部門
- ・東北大学 変動地球共生学卓越大学院
- ・白山工業株式会社
- ・Progress in Earth and Planetary Science：公益社団法人日本地球惑星科学連合
- ・三菱ガス化学株式会社
- ・Earth, Planets and Space (EPS 誌)

○一般公開セミナー

2021年10月17日（日）午後1時から3時50分まで、一般公開セミナーをオンラインで開催いたしました。「東北地方太平洋沖地震10年と地震研究」と題して、東北地方太平洋沖地震（以後、東北沖地震）と東日本大震災の後の10年間に得られた巨大地震に関する知見を整理し、地震学の現状や将来を市民の皆様に分かりやすくお伝えすることを目指しました。巨大地震の繰り返し間隔は長く、その解明には世代を超えた息の長い取り組みが必要と考え、中高生・大学生など若い世代にも響く内容となることも意

識しました。

当日は、まず3件の講演がありました。最初に、東北大学の日野亮太教授から、「2011年東北地方太平洋沖地震—東日本大震災をひきおこした地震」というタイトルで、東北沖地震の発生メカニズムについて分かりやすくご説明いただきました。続いて、防災科学技術研究所の青井真地震津波火山ネットワークセンター長からは、「地震津波観測網で巨大地震に備える ~東日本大震災を教訓に~」と題して、地震や津波を捉えるための基盤的な観測網についてご紹介いただくとともにそれらのデータが社会の中で実際にどのように利用されているのかについてご説明いただきました。3件目は、弘前大学の前田拓人教授より、「早く・正しく：地震波・津波即時予測の挑戦」との演題で、地震波と津波の観測データと大規模な数値計算とを併用して行われる即時予測の原理と技術開発の現状をこれまでの歴史を振り返りつつ解説していただきました。

後半は、パネルディスカッション「東北地方太平洋沖地震のインパクトとこれからの地震研究」を行いました。上記3名の講演者と、京都大学防災研究所の西川友章助教、東京大学地震研究所博士課程3年の山谷里奈氏の若手2名がパネリストとなって、NPO法人natural scienceの大草芳江氏にモデレータをお願いして、東北沖地震が地震研究に与えた影響、新しい観測や解析の技術の可能性、等について、議論を進めていただきました。そして、最後に、地震学を含む自然科学の研究者を目指す若い世代へ、パネリストの皆さんから熱いメッセージを送っていただきました。

当初は仙台での対面形式とオンライン形式とのハイブリッド開催を目指しましたが、新型コロナウイルスの感染拡大のため、9月上旬にオンラインのみの開催と決定しました。そのため、地元宮城県を含む東北地方だけではなく全国にも周知先を広げることといたしました。一般の方に対しては、広報誌「なるふる」の無料送付先へチラシを送付したり、宮城県内の主要な公共施設（仙台市天文台、東北歴史博物館、仙台市科学館、仙台メディアテーク等）を回ってチラシを置かせていただくことで周知を図りました。（公財）仙台観光国際協会にもウェブやチラシの掲示でご協力いただきました。大学生・大学院生・大学教員に対しては、会員が所属する各大学において講義での紹介やチラシ配布等で宣伝していただいたほか、学会のtwitter、メールニュース、ニュースレターで周知を図りました。新聞数社にも紙面でご周知いただきました。中高生に対しては、被災三県（岩手・宮城・福島）の全中学・高校および、全国のSSH指定校にチラシを送付しました。被災三県の科学部のある学校には多めにチラシを送付したうえ、直前に電話連絡も行いました。また仙台市内の主要な学習塾を回ってチラシ

を置かせていただき、生徒への周知をお願いしました。

そのおかげもあって、日本各地から400名近い皆様にお申込みいただき、当日は300名を超える多くの方々にご参加いただきました。直後のアンケート結果から推測しますと、地震学会会員以外の方の割合は6割を超えます。地域別では、地元宮城県と首都圏からの参加が多かったです。また、年齢別では、高校生以下が約5%、大学生が約15%、大学院生が約10%で、一般の方は約70%でした。

アンケートでは、一般参加者の多くの皆様から「分かりやすい説明でよかった」、「若手研究者の声が聞けてよかつ

た」等、ポジティブなご回答をいただきました。広報活動に比して中高生の参加が少なかったことから、これらの世代の方々への宣伝活動については課題も残しましたが、参加された高校生から「今後、地震学の向上に貢献できれば」というような事務局として大変うれしいコメントもいただきました。丁寧に分かりやすく準備していただいた講演者、パネリストの皆様には感謝いたします。また、今回の一般公開セミナーの開催に当たっては、科研費の研究成果公開促進費（課題番号21HP0008）の支援を受けました。